# 第５章

# まとめと今後の課題

# 第５章　まとめと今後の課題

本実践報告書では、高次脳機能障害者の「自己理解を進める」ための支援について、プログラムに参加している高次脳機能障害者個々の状況に応じて、本人の目標や関心のあることからアプローチしたり、できていることに目を向けることで、障害に対する理解を進める方法を検討しました。本実践報告書では、実践内容、その際に活用したツール等について紹介しています。

ある日突然、事故や疾病に見舞われ、一命はとりとめたものの、障害を有するということは、誰にでも起こり得ることです。高次脳機能障害は外見からは症状が分かりづらいことに加え、認知機能の低下により、自分や周囲の状況を理解することが困難になることがあります。また、在職中に受障した又は受障が原因で休職している場合、それまで従事していた業務への対応が困難になる可能性があります。生活面に目を転じれば、就業困難に伴う経済的な問題、育児や介護に対する家庭内の役割の変化、本人に対して家族のサポートが必要となるケース等もあり、本人だけでなく家族にも大きな影響が生じる場合もあります。このような背景を抱えながら、就職や復職等への支援を希望し相談に来られる本人に対し、障害の「自己理解」を前提とした支援の提案は、本人や家族にとってつらいことであることを、私達支援者は十分留意する必要があります。

支援者が、就職や復職、職場定着のために、自身の障害に対する理解や対処方法の習得に取り組むと良いと考え提案しても、本人が良い反応を示さなかったり、意欲的な取組が見られないことがあります。そのときに、「本人が自らの障害について理解できていない」「本人の障害受容に問題があるのではないか」と、高次脳機能障害者の自己理解に課題があるから支援が進まないと考えてしまってはいないでしょうか。本人に寄り添い、本人の納得感を大事にした支援のためには、なぜ自己理解を進める支援があるとよいと考えたのか、支援者自身の振返りも併せて必要になるのではないかと考えています。

支援者が高次脳機能障害者の支援を検討する際、本人の意欲的な取組につながる支援方法を、本人へ提案する一助として、この報告書を活用していただけると幸いです。

本実践報告書では、自己理解について、本人の目標や関心のあることからアプローチする方法を試行した取組をご紹介しました。とはいえ、就職を目指す方、復職を目指す方、就業中であるがうまく適応が図れていない方等、その方の状況によって、目標や関心は異なります。引き続き、それぞれの背景に対応できるグループワークの実施、振返りで活用できる技法やツールを検討していきたいと考えます。

本実践報告書で紹介した支援技法が、高次脳機能障害者の就職、雇用継続、職場復帰等に向けた支援の現場で、少しでも役立つことを期待しています。